翻刻　梅林院能俊「伊勢他紀行（仮称）」

綿抜豊昭

＊キーワード
能俊・小松天満宮・連歌・紀行・伊勢

はじめに

小松天満宮（石川県小松市）に、同三代宮司能俊が伊勢等を巡った紀行文（自筆・巻子本一巻）が所蔵される。記録性の高い紀行文であり、発句と和歌あわせて171をおさめ、近世の名所句集としての資料的価値は高いと考えられる。これまで全文紹介されたことはない作品なので、ここに翻刻・紹介したい。翻刻にあたっては、旧漢字を現行のものにあらため、改行は「／」で示し、詠作には通し番号を付した。なお本資料には文久元年三月付の六代順承の極め状もあるが、紙数の関係で、書誌、極め状等については別稿で述べたい。

〔翻刻〕

こゝに七里の舟路うち海なから／風も追手ならねは桑名の船／も夜に入なといふを聞てさや／と云まて歩渡りしぬまんは／川舟渡し有八釼のやしろ／又つしまの宮なと順礼して佐屋の／汀より舟にのりゆくに此日は／雨降て気色静なり苦引て／まことによるの雨雫にしるの／風情まて思ひ出て／

001・浪枕とまりも果ぬ苦舟の／夢路は遠し雨の川音

はれまにうち詠れは桑名の／城有ふねのちかよる方は石垣／なりめくりゆけは夕陽の空に／うつりぬこゝにやとりを定め／て又行かたに玉垣といふ里あり／爰に杜若いとおもしろく咲たりけり／

002・露のかこふ色や玉垣かきつはた

白子山観音寺と云有堂の／まへに不断さくらとて有一花／斗のさけるはいとあはれ也き／

003・常盤木も花は桜の若葉かな

上野といふに枕をしき捨夜／ふかきに立出れは晨明は入やらす／

004・なつの夜の月さへ残すかりね哉

行／＼て松坂くし田川なと／うち過れは斎宮なり爰に／里あり斎宮にして

005
・旧の名を又若竹の宮古かな
明星の茶屋に休らひ小幡を／過てみや川に至り水をかゝり／なとして／

006
・すゝしめのこゑを宮川の流かな
これより内外の神かきにまうてんと／松木高彦か許に立よりいさな／はれて広まへに拝す末社数々／木立もの古て尊き事とも／なり岩戸山にゆくに坂あり／こゝを過るをりしも時鳥の／鳴をきく其むかし能順法し／神山にして・言やめよ草の／かきはもほとゝきす此句を思ひ／出て／

007
・ことの葉の其古こゑかほとゝきす
うちとの神前にして／

008
・山のみな若葉もあめの御影かな
をなし事を手向にありて／

009
・神の慮うちとも分ぬ若葉哉
二見の浦にゆかむとするみちに／里あり是なんふたみの里なり／うらにゆけは岩くみをのつ／からなる気色山は汀にさし／出てうみ山をとりあつめたる／風景又たくひあらむやは浦／伝ひにうるはしき貝拾ふも／みちのさまたけならん又取集め／たるをうるもありかなたの／岩間にしめ引渡しなとして／社人の独居て神徳を話るも／さしてとはすかたりなれは／尊くも又をかし海つらを／みれは紀のうみ山も仄か也／二見浦にして／

010
・山はわか葉浪や夕かけ二みかた
時鳥も音信ぬへき夕山の辺に／休らひて／

011
・ほとゝきす名のれ一こゑ二見山
あさくまの山にゆく道に渡舟／有爰をすくれは一むら浜荻の／生るありこれなん伊せのはま／荻といふを聞捨難くて／

012
・浜荻の秋はありとものしけり哉
朝熊虚空蔵の御前に額きて／かへるさうみも山もめうつしに／緑をかはすなといはむ方なし／

013
・ことにいはゝあさくま山や夏木立
かゝみの宮五峯山といふはいつゝ／嶺のつゝきたる山なりこの麓に／西上人住棄られし旧跡もあり／朝くまの山も当時はすへて神山／なりしをいつの世よりか寺地に／成ぬるなと高彦物話すあふむ／石といふも有月読の宮にして／秋に限らぬ名也けりなとよみし／こともあれは／

014
・いろは若葉秋にかきらぬ梢かな
下向して高彦か方にとゝまり／何くれとものかたりなとして／又小幡に帰りぬあくるあした／津の町に至りぬれは閻魔堂に／僧のひとりかね打ならして／不断念仏するも殊勝に覚え／侍りぬこゝのかたはらより細き／道をもとめ阿漕かうらにたとり／ゆく此浦にして／

015
・けに心ひく網さへに海松和布かな
国府のあみたは天照御神の／作仏といひて尊き因縁をかたる／又高田なといふをゆけは関の町に／なりぬ地蔵堂もこのひまれの／

戸幌ひらきありて拝すそれ／よりすゝか権現にまうてぬ坂苦し／けに重荷をへるを馬長の情／なく鞭すゝむるもあはれなり／

016・夏草にとめよ駅の鈴鹿山
なといひ／＼てさかをのほる道／木深きかけにしはし休らひて／

017・子規こゑにせきもれすゝか山
行／＼田むら堂にまうてぬ／をりしも新殿造営ありて遷宮の／式さま／＼なり爰に手向侍りぬ／

018・神の光わか葉にうつる宮ゐ哉
土山松尾川なとうち過て水口に／ゆけは横田川舟渡しあり／布引山又なつみ山といふも有／岩山にて樹はなし／

019・夏山をいはゝ岩ねの苔ちかな
いしへといふを過れは梅木村／有雨降てしはし休らひぬ／

020・里の名に薫らはぬれむうめの雨
これよりめ川草津を過て／田中のみちをゆけはやかてやはせの／汀になる舟をかりて大津の／小ふな入といふ迄湖水を渡れは／せゝの城左に勢田の橋右に山田／からさきにしに比えの山又／三井てらなと見ゆ大津を過／走井といふを行てあふさかの／茶やに休らひぬ関の跡は其／かたもなく何となふあはれも／催されけらし／

021・関はいつら杉や知人夏木立
粟田口日の岡峠うち越て行／＼／三条の橋を渡り御幸町の家を／かりてふたよ三夜舎りぬ寔に／九重のうちは殊さらめきて貴也／此ころしも朝鮮人京着なり／見物にとていさなはれけらし／又和州にまからむと催しぬまつ／北野の宝前に詣て／

022・神松や千もと時めく夏木立
ある日加茂の競へ馬を見て／

023・夏川や行水早みくらへ馬
さま／＼の神式とも有洛中／洛外見残して大和路に行ぬ／ふしみの里にして／

024・色ふしの伏見の竹の若葉哉
井手の玉川の辺にて

025・玉川や若葉も色に井手の里
この辺木津川なり又こまの里／といふは二所にありいつみ川は／きつ川の上なりこゝにして／

026・いつ見きといはゝ夏てふ泉川
瓶原かせ山もをなし所なり／さほ川に来ぬれは夕陽に／なりて月もほのめきぬ／

027・月を舟の佐保川すゝし夕渡
こゝを過れは三笠山も見えたり

028・しけり合かけやみか月みかさ山
これよりならの里に止宿し侍りぬ／さ月初つかた猿沢の辺にして

029・こゝろ引菖蒲やけふの草枕
浅香山にして／

030・浅か山陰や水底の夏木立

興福寺は焼失のゝち再興も／なけれはあはれに物さひたり／今に残るは五重の塔東金堂／西金堂北円堂南円堂食堂其外／其形斗なり花の松とをく／ふるもあり名もうるはしきまゝ／

031・はなにゝほへさらは松風うめの雨

所〳〵順礼し春日のやしろに／神拝をして／

032・五月さへさやけき神の井垣かな

ならふ方なき大社にてしかも／美麗なり二の鳥居よりとふ火／野に分入て／

033・とふ火野の所得かほのほたる哉

たむけ山にして／

034・茂りけり神のまに〳〵手向山

ならの里を過て秋篠寺法円寺／なと荒渡物侘しけ也超昇寺又／西大寺巡礼し侍りてゆく〳〵／豊光寺といふあり菅相公出生／の地此所といふ有松梅生ていさ／らゐもあり／

035・吹そめし神かせ伝ふしけり哉

法隆寺七堂伽藍なり招提寺西京／といふは薬師寺なり相双ひて／有郡山を過小泉なと云を／ゆけは松尾の塔仄なり又法起寺／三井法輪寺なと打過てたつ田の／社にして／

036・神垣に千秋やこもるわか楓

立田川みむろの岸なといふも有／たつ山にして／

037・夏山もからくれなゐの夕日かな

爰より河内の上の太子と云に／まかりぬるに山又山を分入て／からうして其所になりぬ磐せの／森にして／

038・なく蝉のこゑに気色を磐瀬山

岩屋越とて峠あり半途と思ふに／ほらありこゝに里人の居て是は／石のわくなりなとをしへて中将姫の／むかし物語するも故有けにて／又おかし坂を下れはからかさの／辻堂いとそめの井糸かけ桜と／いふもをしゆ／

039・枝しけしこや夏引の糸さくら

二上山当麻寺にまうて且又陀羅の／開帳なと乞て暫し休らひて／

040・ふたかみの山とやさ月春の月

これは其季いつれとも分かた／けれと時の五月にいひ捨たる／なれは曇りたるは春の夜にゝ／かよふならむかし又長尾の社／寺尾山なといふもみゆ道の左は／かつらき高間金剛山也中にも／葛城山のかたちおもしろく／覚え侍りて／

041・よそにのみ見ぬ山かたれ郭公

又天の香久山詠めやりて／

042・なつころも干てふ山かけさの雲

橘樹寺香炉寺なと見めくり／岡寺にまうてけれは順礼の男女／仏前にあつまりけさみれは露／をかてらの庭の苔なとおかしけ／なる声つくりて同音によむも／あはれけに聞ゆ我も又／

043・露のみか身を／岡寺の庭の面に／しける苔ちや塵を出覧

044・あすか川にして／

さみたれのふちは瀬となれ飛鳥川

これより阿部の文殊万願寺を過／三輪の明神を拝す本社とおもふ／所には注連引渡しなとしてむへも／神さひたり／

045・過かての杉や三輪山ほとゝきす

布留の山にして／

046・世をふるの神垣やけふ夏木立

いひ棄て泊瀬の寺に詣てぬ此日／稀の開帳に逢事一入尊く思ひ／侍りて／

047・出し世を今も思へと御仏の光を／けふる数の灯火

やかてくれなむとする頃此里に／枕をかる雨夜の徒然旅はいとゝ／もの侘しくて

048・五月雨やね所の夕くれも初せ山

これより多武の嶺にのほり／諸堂めくりてよし野山に入ぬ／さくらの多き事聞しよりけ也／おくの院といふにまかりぬれは／安善寺なと云寺も有又其片つ方に／西行法しの旧跡有爰にして／

049・茂りけり花散なはのよし野山

此山を過れは今井村天満宮／狩場明神のやしろを拝し又／伝法輪寺なと云をゆけは／まつち山の峠にさしかゝりぬ／

050・鵑なけたれをかも待乳やま

はしもとなといふ所を行／＼て／三軒茶屋に仮枕して学文路と云／に至り高野山に登り天徳院又は／七堂伽藍順礼し侍り大師の廟に／まうてぬ此みちの右に左に諸国の／大名墓所有御家の御廟所奉拝ぬ高野にして／

051・夏木立こゝろ高野や深山寺

又玉川にして／

052・玉川や光みかきてとふほたる

二尊院あまのといふ所なとめくりて若山／まて十里あまりの川舟に乗て行／これなむ紀の川也妹せ山も見ゆ／

053・枝かはす契かしけるいも瀬山

舟長の所／＼をしゆるもめつらしく／覚ゆ早瀬川なれは程もなくて／わか山に着ぬ和歌の浦に行道に／吹上といふ有木のもとに休らひて／

054・ふきあけや夏をみとりの松の風

東照宮天満宮なと拝礼して／片男浪と云所に来ぬれは芦へ／むら／＼なりき／

055・さみたれに干潟を浪の芦へかな

和歌の浦にして／

056・若浦やしけることくさ藻塩草

玉つしまの社に手向奉る／

057・こゝに見よ五月曇りぬ玉つ嶋

山かけをゆけは左に海有絶景也／三橋といふは弁天堂のまへ也台より／見渡せは奥のしまちの嶋塩津山／なと嶋／＼多し紀三井寺もうち／むかふかたなりけり／

058・嶋山はめちのくまなるしけりかな

紀三井てらにまうて大坂への道求るに／ゆくかたは目前太神宮也

木立物／古て実に神さひたりこゝより八軒／茶屋を過れは舟渡し有山口／山中の峠を越ゆけは八幡宮の大社／山王権現のやしろ観自在の堂これら／順礼して樫井むらなと過れは蟻通の／明神堂なりこれも又物ふりたる／木立也休らひて／

059・蝉の音に木隠れ浅き夕日かな

又この先に寺のいらか見ゆ佐野川の／渡り二所有湊は家数多し爰にて／

060・時鳥松はら残すゆふへかな

川辺を詠め頓てくれなんと／せしまゝこゝを去てかいつかといふに／行て枕を定め岸の和田の城下／をゆけは願泉寺と云寺あり／又堺の町になれはゑひすしま／こゝに花表あり天満宮也／休らひてみわたせはうみつらの／けしき又たくひもあらむやは／おのつから浪も泙渡り舟の往来数多／なりき住よしの広前に詣しに／御まへの池石のはし其外造営は／美をつくしたり此跡の浦にして／

061・姫堂の名は玉垣のわか葉かな

宝前には神子神ぬし相双ひて／かくらをとゝのへ侍りぬこれなん／住吉の庭神楽なるへし又大坂の／天王寺にまうてけれは堂塔／美麗なり道風真蹟の額有／かなたこなた巡礼し侍り日も／にしに傾きけらし大門を出れは／余光一入に照増り極楽は爰に／むかふならむなと夕日をふし／拝みて／

062・御ほとけの西の迎へも爰にとや／夕日をまねく寺の入相

口に任せて下向しぬ此外大坂の／見物所はいさなはれてめくり／侍りぬ高津の宮にして／

063・杜鵑名のれ高津の都鳥

又天満天神を拝して／

064・菅はらや茂る神かせ難波かせ

天神橋高麗はしなと云を／渡りあみたか池といふにまかりて／

065・たのもしなうき身も果は蓮葉の／はなのうてなに法の池水

けふも難波の浦に日をくらして／

066・春に心うつるもくもるさ月哉

大坂にもとまり果ぬ旅なれは／三四夜をなし枕をかりて／末は有馬の温泉に思ひ立ぬ／ゆく方に十蔵川又神崎川／舟渡し有此所より道をかへて／横折にゆけは伊丹と云に酒を／うるあり池田には炭を商ふ／有昆陽の池に来てみれは清池／にこり池とて二所有爰にして／

067・池にみむこやさく花の杜若

又中山寺の観音堂へまうてゆく／ゆく武庫山もみゆ此あたりは／猪名野なり／

068・小笹はら野風色めく蛍かな

なませと云里に来ぬれは有馬は／ほとちかしかはらを上へとのほる／道なり右に左に山ありて岩も／そはたちいとさかしきみち也／ありまにして／

069・常盤木の落葉もいろに出湯哉

こゝを別れて六甲山九折に／くるしきを越ゆけはまやの／いらか

幽也布引の瀧へと分登るに／川ありて浅瀬しら浪覚束なく／からうしてむかひの岸にいたり／瀧の響をとめゆけは其所に／なりぬ水上は三段に落てそれより／又一筋をつる所まことに布を引／たることくにて廿丈斗も有なむと／覚ゆ風景いはむかたなし／

070・布引の瀧やしら雲の夏衣

山もぬのひき山なり紀州山も／大坂の城も見えたり津の国の／浦／＼浪を砌に住るありさま／風情浅からす芦屋の浦もめの／まへなり此日兵庫の湊川に／やとりて／

071・五月雨の日数や浪にみなと川

雨もと絶ぬれは夜はあつさ弥増て／まくらも疎く暁ころに起出て／みれは月も浪に入残りなとして／気色たゝならぬ芦屋の浦を思ひ／やりて／

072・とを山もうきみる涼し浦の月

又生田野にして／

073・生田野や道さまたけの時鳥

兵庫の築嶋に行河辺の里に／休らひぬ／

074・とふ蛍里の数あるたく火哉

所／＼見めくりて須磨寺にまうてぬ／若木のさくらといふもあり／

075・若木てふ桜時めくわか葉かな

一二三の谷をこえゆけはてつかいか／嶺あり須まの浦にして／

076・さみたれは須磨の塩屋の夕哉

をなしうらにして／

077・馴まほし磯なれ松風夏のかけ

浦伝ひして淡路しまほとちか／けれと浪もあれて舟路覚束なし／けふはこゝに休らへなと舟長の／いふに日も高けれはやとり定め／かねてあはちしまの舟渡りは／せて／

078・ほとゝきす我旅つれよ淡路島

ゆく／＼明石の城下になりぬ／八幡宮稲積明神又天満宮拝て／かへらむとせしに神職の出て／由来をいひしらすも尊き／わさなり／

079・花もあれと又若葉てふ栄かな

おほけなくも一栄一楽の／尊語を思ひ奉る也人丸堂に／まうてぬれは正一位柿本大明神／と云勅額花表にあり此日は／神子御湯を奉るなと神事／在て群集せり手向むもいひ／出ぬへきことの葉もなくて／

080・言の葉のしけりにけりな神慮

あかしにやとりて／

081・月は夏旅ねも明そ明石かた

又忠度の塚と云に立よりて／

082・夏木立はなはこと葉の山桜

刀田山鶴林寺は七堂伽藍なり／印南野を過て大久保といふに／やとりぬ長池金か崎新田／つち山なといふをゆけは古戦場／あり古墳も有と其名誰とも／なし尾上といふにゆけは鐘有／相生の松と

云もあり住吉の／神又大原姫の尊もこゝに／鎮座なり尾上のかねにして／

083・なく蝉も尾上の鐘や松の風

行道の畑中に天の磐舟と／いふありろかいといふもみな石なり／苔のみ生てあやし石の宝殿は／三間斗にして四方なり祠の／やうに切なく扉とおもふ所は／土に付て堂のうしろと見ゆる所は／かみになりて草木生たり下は／水溜りて宝殿はうかひたる様に／みゆるもあやし神力のなす所と云／縁起も求めてみれは天照御神の／めくみなと最尊きことなり／かの由来書にゆつりて爰に記し／侍らす高砂の浦に行てみれは／賑へる里なり曽祢の天神松は／広まへに生たりしはし拝殿に／こもり静につとめて／

084・うるはしき神松風のしけりかな

手向侍るのみなり此松太さ／壱丈八尺心の高さ壱丈梢迄は／弐丈三尺斗もありなん西の枝十間／あまり戌亥のゑた八間あまり地より／三尺斗かみにて枝栄へたり／こゝを見て本道に出てこちやく／といふ所にかり寝し侍りて／夜ふかく立出けれはみちも／たと／＼し雨は頻りに降て／かせあらく休らひかちに行ぬ／川をとのちかつく方にやう／＼と／とめよりて舟を呼ふこゑも／浪にやまきれけん渡し守も／出やらねはせんかたなく川上へと／汀の道を伝へは丸木橋一筋／あるをみつけてうち渡りゆけ／は福居といふにつく姫路の城下／にて夜は明たり城外見めくりて／町を離れ書写山にのほりぬ寺／まては姫路より二里斗も有て山／みちなり一山の堂塔美を尽し／しかも尊き地なり又やかたと云／山里にゆけは空もくれ渡る／まゝやとりを爰に定めたり／福もと一本杉森賀井なと云に／来ぬれは播磨と但馬の堺／あり行／＼日も傾きて竹田と／いふに舎りをかりて

085・夏の日も竹田うへさす帰さかな

明し侘たる仮ねしを旅たち／出れは又山路なり打曇りて／立木もしらぬ山中左にかん古／鳥のこゑ右には渓の水音何と／なくこゝろ細くて山又山と／たとり来しかたの空詠め／やみもくれ深くなりていつ／くの寺のかねやらむ枕かる夜／のあはれさ明なんとして起出／又行さきの道なとあるしにとふも／なさけ頼かほならむかし雨は／小止もなく降て山のあなたこなた／瀝り落る音もさたかなり／

086・五月雨は嶋山つくる川せ哉

こゝの山かしこの谷と幾九折も／過てやなせといふに至りぬ爰は／たしま丹波の堺なり坂を／こえぬれはやく野といひて／広き野あり左の山は城の古跡と／をしゆ城主は誰にてや在つらん／なと覚束なき物語するも畑うつ／おのこなれはせめてとはむも甲斐／なくて過ぬ加井塚といふ所に丹波／たんこの堺のしるしあり又行先に／仰谷と云有里離れに仏岩とて／高さ五丈はかり其形もをのつから／仏像に似たると見ゆるも恠し／雲かはらといふ峠あり牛頭天王の／大社有山路ふかく入まゝ大江山に／なりぬ雲は山の半まて引かゝり／風景いはむかたなし／

087
・夏山も雲の下くさや大江山
行〳〵て岩瀧と云になり／ぬれは水うみありこれなん／与謝の海なり舟にのりて／ゆけはあまの橋立めのまへなり／成相のかたを見やりて舟を寄る／に入海なれは四方に山ありて／高きひきめうつゝもこゝろあや／しき斗むせひて景気いひ／出むわさもなし与謝のうみ／にして／

088
・いさり火も爰に入うみやとふ蛍
此辺に五ヶ村あり丹後の国府とそ／覚え侍る国分寺この所に有舟を／小松といふ浦里にかけて成相の／山にのほり見渡せは入うみ二所に／有天のはしたてうち渡して／まことに絶景なりふたつの海は／橋立にて隔或は山のさし出たるも／あり又岩間を水のめくるもあり／はしたてにして／

089
・橋立や涼しさ渡す天のはら
成相にして／

090
・うみ山の数は幾都に成相の／めちにかゝるやあまの橋立
景気は詞にも及はねと見し／ことのしるし斗にいひ捨たる／のみなり成相本尊は観自在／秘仏也宝物ともは乱世に紛失／し侍りて多く等持院贈相国／制札一色家細川兵部大輔／藤孝幽斎下知状まてなり一藹を／惣持院とそいひ侍るこの一山は／高野山の末寺なり与謝の海の／入江／〳〵橋たての松はらうつす／とも筆も及す話るとも尽／ましくこそ覚ゆれ橋立の／并木のかけをゆけは森有爰は／厚松明神の小社なり守誰も／有けならす其かたつ方に／磯清水あり林春斎かゝける／碑の銘有其中に和泉式部か／歌とて橋たての松のしたなる／いそ清水みやこにあらは君そ／くまゝしといふ歌を書付たり／いつれの集に入たるにやわれは／覚つかなし藤原保昌に具して／式部丹後に下りける事なとを／思ひて書付をけるにやなを／式部か歌ならんことしらまほし／

091
・又も来むちきりむすへよ磯清水
冠しま沓嶋なといへる嶋も／見ゆ山の隙／〳〵より北のうみ／はるかに見わたさる日置の里と／いへるあり犬堂といふも有是も／故ある事といへときゝてもよし／なしともらしつ男山愛宕山／なといひて山／〳〵あり八幡大菩薩／の社と云も沓なり舟の行手に／いくらも聞ける所おほかれと名／たゝる名所にもあらねは例の／洩しつ舟を切戸の文殊堂の／まへによせて参詣し侍りぬ／こゝを五台山智恩寺とそ／いひ侍る霊宝なとあなれと／乞て見侍らむもやかて暮なんと／せしまゝ下向をいそきて見侍／らす諸堂順礼し侍りぬ縁起は／正徹書記か筆跡とそ今の／宗旨は禅宗にて妙心寺の／末寺なりむかしは法相真言の／宗旨とそ話るはしたての末と／知恩寺との出崎の間見渡す／所一町あまりもや切戸なるへ／しと見ゆ此辺よりみれは夕日の／里と云ありそのうへの山を芳野／山といひて春はおほくはな／咲侍ると云をきゝて／

092
・里の名を夕日や花の雲峯
こゝにもうち渡す方四五十間斗／の入江あり又舟に打のりて行に／ゐんのほらといひて山有こゝは／幽斎の愛し給ふ地と云いさゝ

か／平地ありて水海の気色を近く／見渡しぬふりよき松も岩も／処〳〵にさし出樹は浪の上に／生たるさまなと景地なりき／古跡めきていかさまにも幽斎の／愛せられし所といふもさも有／ぬへくそ覚ゆ宮津を出て／普光峠になりぬ此山より／みれは千丈か嶽由良かたけ／与謝のうみ天の橋立も見ゆ／道は岩ねにてこゆるもいやましに／苦し右に左に水落て数丈の／布を引たることく瀧川もいさ／きよし大江山は雲かはらより／詠め連て又こゝにしてうち向ひ／侍りぬ此裾野より天の磐戸山／に至るみちはいつ分捨たる／跡ともおもほす絶／〳〵にて松／かね或は岩かとを便にゆけは／水をつる音あり日浦か嵩と云／も此所なり山かけに萱か軒／端の小社有て黒木の鳥居に／井垣もかこひぬ拝堂に暫し／休らひてみちの苦しさを／補ふ爰は天照神の遷御なさ／しめたまふ所ときくもいと／かしこく拝しぬ内宮にまうて／本社末社順礼し侍り神職の／河田伊賀守か許に立よりて／内外の宮造りはいつの世よりの／事にやととひけれは今の／勢州の神垣よりもとをき／むかしのことゝ語るうちとの／社家六十軒ときく爰にかりねして／朝またきに立出う治橋を渡り／ゆけは外宮になりぬ宮めくりして／

093・宮はしらふとしき山の茂り哉

こゝに和泉式部か古塚とて有／も社地にはあやしきわさなり／行／〳〵て熊坂といへる山有殊に／けはしきみちなり五六町も／のほりなんと思ふにいさゝか平地／あり此所よりうへはくまさゝのみ／しけりて外の草はなし又／深せ川といふは千丈か嵩より／なかれをつるとそ水の面かきり／なく大石たゝみあけいしの色は／黒く紫のみなり其川そひを／ゆくに外のいろなる石は見えす／又前坂と云もあり山の名は／荒神山とそ小社も有けるとなん／河守といふ里あり川有いと大き／なる川也行先おほく雨は小止も／せて物こゝろ細きにはしは／なかれ落なとして越むよすかも／なく舟越といへと早瀬をのほり／川なれはいさといふ舟人もなし／今は歩よりとおもへと浅せ白浪／音高く汀を行かへるのみなる／に田をつくる翁の独来て川上／へ来よといさなひて山の片岨を／伝ひ十町斗も歩みぬると思ふに／いつとなく向の岸もちかき川に／なりぬ爰を渡りてこえよなと／ねんころにをしふるも旅を／憐むなさけ浅からす忝覚／ゆれからうしてむかひの岸に／至りぬれは道もなく水の／たゝへて畔を伝ふもことに／たと〳〵し／

094・川のへや早苗を小田の水串

口に任するも又独旅の思ひ／出ならまし福知山と云所／にしてかれ飯なと喰て浅せと／いふにゆけは舟渡しあり／砂地と云を尋ねよりて

095・藤浪やをられぬ水の花かつみ

岩崎といふを過れは生野也／大河を隔二むら有五月雨の／水かさに橋も落て舟もなし／こゝろ細く侍りしにさとの／おのこの来るをまちつけて／浅瀬のしるへをたのみて／こゝもうち渡りぬ生野にしはし／休らひて／

096・幾こゑもなかは生野のほとゝきす

例の平句なれと懐に筆の／あるまゝ書付侍りぬこれより／やなせ川むはら河なと名たゝる／大河をうち渡りて大久保と／いふに着ぬ甲山なと云を過れは／うち開きたる岡あり人に／とひけれは深志野とをしゆ／

097
・露深き野はことくさの葉山哉

水戸山の峠をこえて園辺と／いふにつく来しかたゆくすゑ／思ひやれは杏なり峠も爰に／かきるならんかと道ゆく人に／とへはまた果もなきなといふも／心細きわさなりうちむかふ／かたは尾細峠柞峠なといひて／小石くつれ歩み行も踏とめん／方なきやうにて危き岨伝ひ／なり休らひかちにゆけはやう／＼／鳥羽に着ぬ思ひやれは大路も／ちかし旅さへ安きこゝちして／こゝより山城の国つ風触初ぬ／

098
・国津風ふくも鳥羽田の早苗哉

茅はら村といふに来ぬれは／西明寺殿の卒都婆とてあり／篠むらと云は八幡の社有元弘／年中に等持院贈相国鎌倉／よりのほり給ひ義兵を起し／給ひける時此社に願書を籠て／伴なへる一族の上さしの矢を残ら／す納めけるか其願書も今に／ありくれ近くなるまゝよそ／なから拝して下向し侍りぬ／杳かけ峠うち越てかたきはら／それより亀山の城下になりぬ／こゝに仙洞の跡有といふをきゝて／

099
・世のかせをみとりの洞や夏木立

ほとなく桂川の渡し舟にうち／のり月のえにを思ひ出て／

100
・雲水も晴よさ月のかつら川

うち渡りてゆけは大路に成ぬ／四条通柳の馬場なる家をかりて／旅居を定めけらしこの比は／祇園のまつりとて人の往かふ／しけしある日いさなはれて梶井の／門跡天満宮にまうて又百万遍と／いふ寺にまかりぬ此ほとりなれは／よし田の社に拝して／

101
・松かせも心涼しやかくら岡

鹿か谷万無寺といふ有不断／念仏殊勝に覚え侍る此所朗詠か／谷ともいふ公任卿朗詠を撰ひ／給ひしは此所とそ黒谷をこえ／永観堂若王寺一乗寺むらの／宮曼殊院竹内門跡の御事也／聖護院の宮尼宮これら／御殿見物して南禅寺にまかり／けり氷室の日なれはとりあへす／

102
・はつ雪をけふも宮古や氷室山

宇治の里へまかりける日は雨の／いたく降て道の見物所も帰るさに／晴なはなといひて彼里に行ぬ／空の色夕立めきて雨止けり橋を／渡るとて／

103
・夕立は川橋渡すはれ間哉

平等院にまうてぬれは念仏の／鉦鼓聞え侍りぬさし入に草村／生たるあり頼政生害のところ／とてあふきの芝と名付たり／松も立て古跡めきたるさま／あはれ催しけらし／

104
・うもれ木も名やは夏草の花の陰

此寺の宝物とて頼政装束／なと云あり廻廊物ふりたれと／めつらしき廊のかけさまなり／又亀の茶屋と云あり亀の形／したるいし

水中に見ゆ／う治河の浮しまといふに石の／塔あり小嶋崎は橋より見えて／川中なり其外神社又興勝寺／なとめくり山吹の瀬にして／

105・風薫れさらは山吹のせゝの声
う治よりかへるさまも小止てこゝち／よしみむろ戸山に行て観音の／宝前に額きて又仏国寺に／まうて黄檗山万福寺にも入て／境内見めくりぬ寔にしつかなる／地なりこゝを去て六地蔵と云／を過木幡の里又藤の森の陰に／居て／

106・時鳥はな忘れすは藤の森
いなりの社に参詣し侍りて／

107・すゝしさも三の玉垣や神慮
又深草山の麓を分行は／名もしらぬ小草二もと三本／花さけるは先此野へや秋を急く／覧なとめつらしく覚侍る物／からいひ捨て過ぬ／

108・花もこゝに心深草の夏野かな
野への桜し心あらはのえにを／おもふのみなり又北野の／宮に再拝し侍る折から樗の／匂ひ来るにとりあへす／

109・松かせも花にあふちの匂ひかな
能作か許に何くれと物話して／夕くれちかく立出いさなはれて／今宮よりかなたこなたとあり／きて平野の社地をうち過れは／紙屋川にさしかゝりぬ橋上に／たゝすめは蛍もほのめきたり／伴なへる人のいひ侍りけるは／そのむかし能順かみや川にして／・かみや川つゝみあつむる蛍かな／此句を題にして橋を過ぬ／ほとに発句をつかふまつれなと／たはふれにいひしまゝ／

110・とふ蛍かけを包むな紙屋川
興したる斗也これを名残／にして旅宿にかへる又雨の日の／徒然なるに旅居をとはれま／ほしなと梅笑軒か許へいひやり／けれはさは思ひつかしとて／我かたをとひ来る折しも／なくさめ種の土産もありて又／・なつかしきこゑや知人子規／これをゝくりし返事に／

111・言の葉の初音や世々の郭公
是なむ書ておくりけらし或日／里村昌迪か許よりとひねかし／なと云こと有てまかり侍りぬ／此日連歌催し誰かれ打よりけり／我は座の側に有なんなといひけれと／席をゆつりて句を望めるまゝ／五七句も付侍りぬいまた連歌は／満ねと迎のものゝ来るに任せて／退去し侍りぬ又の日は智恩院に／いさなはれて仏殿其外座鋪をも／見物し又大師のまへに額きて／

112・台てふ蓮葉広き誓ひかな
高台寺にゆきて方丈へ案内／して見物し侍りぬ小堀宗甫の／物すきの間所なと古めき目立て／見ゆ又清水寺にして／

113・繰かへし涼しさ結ふ瀧の糸
鳥辺野なと過る折しも／

114・露の世のかせこそ茂れ草原
泉涌寺にまうてぬれは法安寺と／いふに伴なはれて何くれと物／

話りなとしけるに発句つかふ／まつれと有けるまゝ／

115・こゝに世の塵を泉や寺の庭

又東福寺は七堂伽藍材木は／からきと云通天の桧といふも／此所の庭なり東寺は焼失の／後再興なしとや荒たるさま也／このてらの西の門を羅生門なとゝは／田舎ものゝいひならはしとや大通寺／東西の本願寺なと見物し侍りぬ／玉つ嶋と云有此所は俊成卿の／旧跡と云五条の天神空也寺いな／は薬師平等寺なといひて／其所／＼見聞しことあなれと／させるふしもなきことはもらしつ／又誓願寺にまうてけれは遊行／上人参籠の比にて群集せり／此寺殊に物ふりたるさま也／誠心院といふは和泉式部像／軒端のうめとて古木あり又／御霊八所と云あり相国寺は五山也／浄花院といふは禁中の御仏殿なる／よし去によつて寺号山号／なしとかや等持院尊氏十三代／木造有妙心寺にまうて寺中／見物しぬ玉鳳院とて有これは／花園院の一宇なりとをしゆ／大とく寺に入て芳春院を／はしめ大徳寺方丈其外寺々／見物し侍りぬ又の日は北野の／社僧か許にして連歌を催し／句をきゝ侍るも殊に珍らしく／おほえぬある日は八幡山にまかり／けりこの道も往来しけし／鳥羽の想塚なと云ありつゝろ／伝ひの道を過なとしてよとの／城下になりぬ橋は三所に有て／みな大きなるはしなり西国大名／の舟かさり立るも汀にかけし／まゝなりいしかきもとに水車／あり川つらを見渡す気色／城もあれは山里も相双ひて／見ゆ舟の行かふもありて又橋／うち渡すも有四方をとり／ましへたる風景名たゝる淀川／のなかれめなれねはなを行過／難くて／

116・行水やあつさ淀まぬよと車

八幡山にして／

117・さかゆくやこれに枝をりのほとゝきす

おなし所岩清水にて／

118・神こゝろえも岩しみつ夏もなし

本社末社巡礼し侍り瀧本坊／なと見物して時もうつりぬれは／月もほのめきぬ八幡山と云を／発句につかふまつれと亭坊の／いへりけれと早帰りなんと／こゝろいそく物から思ひよる事も／なくて／

119・思ひ入や夏は月弓八幡やま

男山をめくり狩尾の社神拝／し侍り橋もとと云に至りて／枕をかる夜を明しては離宮に／まうて山崎のあなたこなたと／ありきてたから寺又観音寺／なと殊勝の地なり利休の数寄屋／妙喜庵なりこれらめくりて／向明神にまいりぬ栗生光明寺／又吉祥院の天神拝して／京地に帰る又南禅寺の方丈へ／伴なはれて座鋪其外見物し／侍りぬ金地院にも入て東照宮／拝し退去の帰るさ新南の茶屋に／いさなはれてしはしは時をうつし／侍りぬ臼井何かしと藤柳泉なと／何くれと物かたりなとして語る／こそことの葉風の始なれなと戯に／いひ出てこの句を継てなといへる／かへりことに／

120・涼しさは此ことの葉の戦きかな

このゝちは柳泉か許にして連歌／せんなといひかはしぬ我は大森

何かし／に招かれてゆく日なれは爰に長居も／えせて立別れぬ大森か許にとゝ／まりさま〳〵こゝろをいれたる／ことゝも浅からぬわさなり庭は／木立物ふりいしもうつめる斗／生たる苔に水そゝきなとして／砌の気色さらに夏とも覚え／侍らす祝して句をおくりぬ／

121・すゝしさを集てふかし庭の松

又の日は御室に伴なはれて御所／見物しぬ帰るさ双岡の庵に立／よりて／

122・秋の色にをなし夕日の若は哉

夕陽になりてかせもすゝしく／吹かよひぬうちむかふかたは衣笠／山なり夏にして発句きかま／ほしなと人のいへるも道のなく／さめ種ならん／

123・夏かさも衣笠山や下涼み

誹諧にもをとりぬへし又紫野の／雲林院にして／

124・雲も名に樗は花のはやしかな

瑞光院なとめくり四条に帰りぬ／七月十四日は祇園の神事山鉾の／見物事いかめしくも又尊き／わさなり此やしろに手向奉る／

125・すゝしめの祇園生の茂り哉

智積院といふは真言宗檀所／なり爰に勧学院と云あり／見物して帰るさ大雲院に詣ぬ／又ある日は愛宕山へこゝろさして／出ぬ伴ふ人もありて守僧の／寺一見して太秦の堂にゆく／道これなん千代の古道なり／けらし雨はいたく降て分迷ふ／ほとなりき／

126・夏草や千代の古道天のみち

広沢の池にして／

127・音羽山しつむや水に夏のこゑ

大沢と云もあり長刀坂と云を／うち越て高雄山にのほりけれは／山は楓のみ生しけりたり秋は／さそあらむなといひ合て／

128・若楓こゝろをくあるや山の秋

栂尾槙尾なと山めくりして愛宕に／まうてぬ苦しき坂なり嵯峨／野に至りて釈迦堂にまうて／清涼寺といふことを／

129・たれも爰にきよく涼しき寺井哉

二尊院小倉定家卿山庄時雨の／亭と云を／

130・蝉の音もむかししくれの舎かな

小倉山にして／

131・しけりけり名を夕景の小倉山

祇王寺常厳寺順礼し野宮に詣て／

132・古き風しけりてふかし小柴垣

あはれなるさまなり黒木鳥居／小柴垣其かた残り侍りぬ又／戸難瀬の瀧にして／

133・瀧つ浪たくひ夏山夏もなし

大井川にして／

134・鵜飼火よほたるよこゝろ大井川

天龍寺嵐山法輪寺にしはし／休らひて／

135・涼しさや積りてこゝに嵐山

松尾西蓮寺花巖寺葉室山／なと過て大はら山西上人の旧跡／あり冴野の沼にして／

136・夏の日も冴野あやしや松の風

小塩山十輪寺に休ひて／

137・ほとゝきす行袖をくめ小塩山

此所に業平塩竈の跡といふも／ありあやしきこと也よしみね／三怙寺なと山をめくりて京に帰り／侍りぬ又歌の中山清閑寺に詣ぬ／こゝに高倉院御陵有相双ひて／こかうの局の墓と云も有醍醐の／三宝院一言寺花山寺福応寺／又僧正遍照の古塚と云もあり／元興寺は遍照の寺今は遍照寺とも／云とやらん爰にして／

138・古こゑを雲のかよひ路や子規

小町寺と云は玉章にて造り／たる地蔵とて此寺の本尊なりき／これらをめくりて帰るさ暮深く／なるまゝ三条の大橋に立休らひ／川つらをみるに涼みのころなり／けれはかはらの灯火見せ物所／小屋の篝火川の面はほしか／蛍かと云しもこゝの事ならん／かしと思ふもなをあやしき／わさ也けりある夕くれさそ／はれて川原に立涼むまに／／夜もうつりて月はいやましに／すみ渡り風情浅からす／

139・涼しさや心の底を水の月

あくる朝は飛梅の天神にまうてぬ／上久て殊勝なる宮井なり豊国の／社といふもあり／

140・うめにとてけにかせ薫る木かけかな

又妙法院の御殿見物してかへりぬ／小松谷といふにまかりぬれは寺有／其辺に佐藤何かしか古塚と云も／あり町屋にあやしき事なり／又くらまにまうてぬれは元信か／筆とて天狗のかたち牛若甲／具足大刀なといふもありこれも／宝物とてみし事なれはしるし／侍りぬ僧正か谷と云をめくりて／又岩倉にまかりけり爰にも宮の／御殿あり仏前には老若男女／こもり称名するもあはれけに／覚ゆこれより貴船明神に参詣／し侍るにみちは川添に暑さを／忘れいさきよき水の幾瀬も／なかれて所／／にさし出たる／岩なとめたち侍りぬくれ渡る／まに／／水上は蛍ほのめきて／けしき催しかほなり／

141・岩浪のこゝろをくたく蛍かな

糺のやしろに立よりみれは涼みの／遊興とて休所いくらもありて／往かふ袖もあまたなり／

142・神慮人もたゝすの御祓哉

又水なせ川といふにいさなはれて／

143・こゝにみんかけや水無月みな瀬川

をなし川辺に休らひて／

144・涼しさや夕は秋の水無瀬山

水無瀬殿御所のうちに後鳥羽院／御廟有又の日は邂逅山金龍寺に／まうてぬ此寺は春の夕くれ／来てみれはと能因のよみし／より入相寺と俗にいふとなり／まことに山寺なりき法師の／ことの葉を思ひ出て／

145・言の葉の林の鐘や深山寺
させるふしもなき事を／いひ捨侍りぬ比しも水な月の／末つかた京都を立別れ越路に／趣く誰かれ連歌歌なとおくり／ぬるは心ひかるゝほたしならまし／ちかき秋風もふれ残して山しな／の方にゆく／〳〵かへりみて／

146・別れてもみやこ近つけ秋の風
又横川にのほりて／

147・これや此山や八重たつ雲の峯
比えの山に分入堂塔順礼し侍りて／

148・法の花の光伝へし若葉かな
こゝよりさかもとの日よしの／社に神拝して夕かけのころ／なりけれは／

149・まうてしや日吉折よし夕涼み
坂もとの町を過ゆけは辛崎の／松聞しにまさる木立恠しく／又めつらし海のうへに生たる／やうなといはむかたなし左には／志賀の山もうちつゝきたるなり／

150・涼しさやうみ山競ふ一松
かけに立ならさむもくれ近く／なり侍れは大津のかたにみちを／たとりて三井寺に詣高観音の／うてなにのほりぬれは水うみは／めのまへなりき／

151・さゝ浪や観音ちかし秋の海
三井寺の鐘を見て／

152・かねはあれと夕景そへよ蝉のこゑ
大津の町末に義仲の塚といふ／ありせゝの町を過ゆきて石山／にまからむとする道に兼平か／塚と云もありいしやまに詣／ぬれは硯なと宝物めつらしく／思ひ侍りて／

153・なくせみの羽ころもかろき石山の／梢にちかし秋のはつかせ
これも読置し言の葉なとを／かりてかくなん又硯によせて／

154・筆のはやしみるいし石や下涼み
勢田のはしをうち渡り海つらを／みれは景地数／〳〵なりまことに／八景を撰ひたるも殊に勝れ／たるなるへし／

155・うみ涼し秋にゝほてるかゝみ山
此辺にして名取川いさや川なと／いふはいつくそととひけれはせたの／上にや下にやさしては／しらすなと覚つかなく答るから／

156・ことゝへはいさと斗にいさや河／もれし名とりを／何忍ふらむ
名取川ともいさや川ともよみ／たるなるへし又堅田のかたを／詠めやりて／

157・秋かせもなひくかた田の早苗かな
竹嶋を杳になかめて

158・浪間をもわか竹島のみとり哉
ひらのねを打詠て

159・夏の日のくまやひらの根にほの海
三山にして

160・なつも早杉間涼しく三上山

竹生しまも見え渡りぬ行〳〵／草津なりこゝに馬か池とて故有／事といへと聞てもよしなしと／例のもらしつ守山の辻社の木陰／に居て／

161・こやしくれ守る山名のるせみの声

爰よりみちをかへて錦織寺と云に／まうて道をかなたこなたまとひ／ありきて百足虫山といふ陰に／なりぬ篠はらにして／

162・しのはらや夏をいてそよ秋の風

老曽の森にして／

163・松にとはむ老その森や夏のかけ

やすの川にして／

164・旅もやすの川辺や夏を忘れ水

善光寺川横関河清水ケ端／といふに観音寺あり川を渡り／ぬれはつち橋むら爰に歌川女／のはしと云有誰かいひならはしにや／これより四十九院と云寺あり／高宮より多賀に詣ぬれは／諸堂美麗を尽し侍りぬ見／めくりて鳥もとに出ぬ此時朝鮮人／関東よりのかへるさ此所にして／行合見物し侍るまへはらなと／うち過て坂田明神に参詣して／長浜にゆかんとする道湖の汀に／立休らへは嶋〳〵は詠に近し／なかはまに大寺ありきのもとに来て／しはし休らひやなかせと云に／かりねして明るあした山路を／分入て峠有近江若狭の堺也／疋田と云に至りぬれは敦賀は／ほとちかしみちの口といふに／川有里ありつるかの浦里により／て見れは金ヶ崎の城山又海への／気色舟の交加山際をめくるなと／浪も汗わたる夕名こしの／祓を思ひ出て／

165・旅ころも浦のみるめや祓種

まくら敷棄起出れは初秋の／空なりけり我もけふはしめて／気比の御社に神拝をして／

166・はつ色の秋かせ白し木綿かつら

きのめ峠なと云をこえて帰山にて／

167・来る秋に旅はあやしやかへる山

今庄といふにやとりぬ火うち山／めたちて見ゆ湯尾峠の茶屋に／休らひぬれは孫嫡子の守受よ／なと其由来を話るもいひなれ／たるなりき麻生津過て福居に／ゆかむとするみち玉江の橋にして／

168・たな橋は横たふ露の玉江かな

福居を離れて田中の道をゆけは／新田義貞戦死此所暦応元年七月二日／と石碑に彫残し侍りぬそれより／中綱川今井川なとうち渡り三国の／浦里に着ぬ寺々拝みめくりをしま／といふに浦伝ひして／

169・山は月の舟をしま根や霧の海

北かたといふより舟に乗て蓮か浦を／見て／

170・花にせん浪や蓮かうらの秋

よし崎鹿嶋なとうちなかめ／塩屋瀬越の苫屋の住居も／あはれけに覚ゆこゝを過て／大正寺にまかりぬれは関迎へとて／たれかれまいり合ぬ日を経て／逢見しことのめつらしく覚え／侍りて何くれと思ふ事を爰に／寿きて／

171・来る秋は風の戸さゝぬ関路かな

よしなし事もこれを限りに／筆を棄たるなるへし／

延享辰／初秋中旬／梅林院／能俊

〔付記〕

翻刻の御許可をたまわりました小松天満宮北畠能房氏には厚く御礼申し上げます。